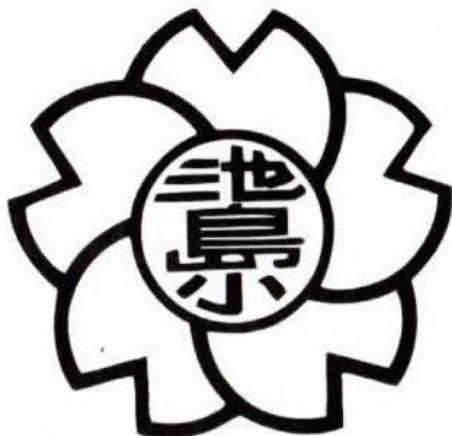


令和 5 年度

運営に関する計画



最終評価

大阪市立池島小学校

大阪市立池島小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校地域は 2 か所の児童養護施設と付随する 2 か所の小規模施設を有し、虐待を含む様々な社会的養護を必要とする子どもが約 40% 在籍している。その多くの子どもは愛着障がい（AD）の傾向をしめしており、重複して ASD（自閉スペクトラム症）や LD（学力不振）等の発達症をあわせ持っている。本来形成されるべき特定の人との愛着がうまく形成されず、感情の未発達・未学習を引き起こし、絆の問題を抱えることとなった子どもに対し、入学後に愛着形成を行う必要がある。これは施設の子どもに限られた問題ではなく、一般家庭でも見られる状態である。さらに、特別支援学級在籍割合は 36% であり、個々の子どもに対する手厚い支援が必要である。こうした状況の子どもの自尊感情を高め、自己と共に他者を大切にする心すなわち自己有用感を育てることは、本校にとって喫緊の課題である。

本校の地域は、児童養護施設の子どもに対する理解は深く、地域の子どもとして大切に育てている。施設側も地域と共に子どもを育てるという立場で子どもの育てに関わっている。

第 1 期、第 2 期大阪市教育振興基本計画のもと本校では、多くの成果をあげてきた。

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】においては下記である。

- いじめの解消率 100% を維持。
- 「学校は仲間がいて、いじめをゆるさない安心できる場所だと思う。」に対する肯定的な回答の割合は、80% を上回った。
- 「学校のきまり・規則を守っていますか」に対する肯定的な回答の割合は、90% を上回った。
- 自尊感情や自己有用感に関しては、「自分には 1 つ以上よいところがある。」に対する肯定的な回答の割合は 80% を上回った。「誰かの役に立つ人になりたい（高学年）」と回答する児童の割合は、90% を上回った。
- 不登校の子どもが毎年 1 名以上出ており、登校できるようになってはいない。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】においては下記である。

- 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較した時、3, 4, 6 年生は向上しているが、3 年連続で 5 年生が低下傾向にある。（令和 3 年度 3 年生 91.7 4 年生 99.0 5 年生 96.5 6 年生 97.0）
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対する肯定的な割合は前年度より増加し、79.6%
- 「すすんで漢字学習に取り組んだ」に対する肯定的な割合は 85%、漢字検定合格率は 75.3%
- 令和 3 年度全国学力・学習状況調査では、国語、算数ともに平均正答率は大阪市を 6~7 ポイント下回っている。
- 令和 3 年度全国体力運動能力、運動習慣等調査の結果、体力合計点は、男子は大阪市平均を上回り、全国平均はやや下回った。女子は大阪市平均とほぼ等しく、全国平均を下回る結果となつた。

こうした現状と成果を踏まえ、新たな教育の方向性を導くために、第3期大阪市教育振興基本計画の3つの最重要項目から今後4年間取り組む課題を整理する。

安心安全な教育の推進

- 子どもと教員との愛着形成を図る。

本校の子どもにとって教員との愛着の形成は不可欠である。特に、学級担任、支援学級担当との愛着の形成を図り、感情の学習や他者との関係性づくりを進める。

- 自尊感情の向上を保障する。

学校のきまりを守る、自分の可能性に気づく、仲間と共に活躍する場を得る、自己の成長を感じる、他者から必要とされる、成功体験を繰り返す等の自尊感情を高める学校生活を保障する。

- 自他の命を守る力を育成する。

子どもの道徳性、社会性の育成に努め、自他の命を尊重し安全で安心な社会づくりに参加するための資質・能力を育てる。

未来を切り拓く学力・体力の向上

- 学習の基盤となる資質・能力を育成する。

すべての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となる言語能力を支える重要な要素である語彙を豊かにする。(読書、漢字)

- 授業の質的転換を図り授業力を向上する。

個別最適な学び（「個に応じた指導」（指導の個別化と学習の個性化）を学習者の視点から整理した概念）の一層の充実を図る。そのため、主体的・対話的で深い学びを実現する。同時に、探求的な学習や体験活動等を通じ、協働的な学びを実現する。

- 外国語活動、外国語科の授業の充実を図る。

C-NET、外部講師と外国語担当教員、担任との連携の強化を進める。「小学校低学年からの英語教育の時間」の確実な実践を積み重ねる。

- 自己の体力に関する理解を進め、主体的に運動する習慣を付ける。

体育科授業の実践記録の積み重ね、運動環境の充実、全校体力作りへの取組を行う。

学びを支える学習環境の充実

- 学習者用端末を使用した学習の日常化を図る。

協働学習支援ツールや学習用デジタルドリルの活用を一層充実させる。また、プログラミング学習年間指導計画に則った実践を積み重ねる。自己の体力に関する理解を進め、主体的に運動する習慣を付ける

- 「学校園における働き方改革推進プラン」に基づいた働きやすい職場環境を整える。

- 長時間勤務の解消、年次有給休暇の取得率の向上を図る。

- 読書環境を整え、読書活動を推進することによって、本好きな子どもを育てる。

前述の課題を受けて、令和7年度末までに達成する中期目標を下記の通りとする。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○令和7年度末の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
73.5	中止	73.9	67	75.8		

○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
0.71	1.60	1.80	0.99	0		

○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

○令和7年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を令和3年度(60.9%)より20%増加させる。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
70.6	中止	60.9	86.9	76.4		

○令和7年度の小学校学力経年調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
77.3	94.1	90.9	85.9	90.5		

○令和7年度の校内調査の「災害や防災について、自分にも起こりうる事と考えて行動できた」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
△	△	△	90	100		

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
34.4	36.7	42.6	27.2	40.4		

○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より向上し1.00以上にする。

	国語				算数			
	R1	R2	R3	R4	R1	R2	R3	R4
現6年生	0.85	0.86	0.89	0.90	0.95	0.92	0.77	0.73
現5年生		0.95	0.88	0.93		0.96	0.90	0.89
現4年生			0.77	0.81			0.73	0.68
現3年生				0.72				0.74

○令和7年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
67.9	91.3	86.9	87.5	72.8		

○令和7年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
63.0	64.2	67.8	68.4	62.3		

○令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を80%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
79.7	中止	79.5	67.9	71.7		

○規則正しい生活を身に付けている児童の割合（令和7年度の全国学力・学習状況調査の「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする児童の割合）を70%、80%以上にする。

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
寝ている	67.6	中止	60.9	65.2	66.7		
起きている	85.3	中止	78.3	82.6	75.0		

【学びを支える教育環境の充実】

○令和7年度の校内調査の、「授業の中で学習者用端末を活用して学習している」の項目（協働学習支援ツール、デジタルドリルを含む）について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、80%以上にする。

R4	R5	R6	R7
93	81		

○令和7年度の校内調査の、「学習者用端末を活用して発表することができますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。

R4	R5	R6	R7
86	77		

○令和7年度の校内調査の、「プログラミング学習は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

R4	R5	R6	R7
75	81		

○令和7年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

R4	R5	R6	R7
72.1	68.1		

○令和7年度の保護者アンケートの「お子様との会話や学校からの手紙、連絡等で学校でのお子様の様子がよくわかりますか」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を、90%以上にする。

R4	R5	R6	R7
95	94		

○ゆとりの日を毎週1回以上設定する。

○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を 100%にする。

（基準2とは、時間外勤務が年間720時間以下、月45時間を超える月数6月以下、月100時間を超える月数0、前2～6か月の平均が80時間を超える月数0）

2 中期目標の達成に向けた令和5年度目標

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を75%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5
73.5	中止	73.9	67	75.8

○令和5年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

R1	R2	R3	R4	R5
0.71	1.60	0.88	0.99	0

○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

○小学校学力経年調査及び年度末の校内調査の「学校に行くのは楽しいですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合をいずれも80%以上にする。

	R1	R2	R3	R4	R5
経年	79.4	82.8	73.7	72.0	73.7
校内	77.3	85.7	85.5	86.0	89.0

○年度末の校内調査において、「自分には1つ以上よいところがある。」と肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5
68	83	79	82	93

○令和5年度の小学校学力経年調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5
70.6	中止	60.9	86.9	76.4

○年度末の校内調査において、「いじめは絶対に許されないだと思いますか。」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を70%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5
45	47	58	77	91

○年度末の校内調査において、「学校や学級のきまり（約束）を守っていますか。」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 60%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5
53	64	58	58	57

○令和 5 年度の小学校学力経年調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5
77.3	94.1	90.9	85.9	90.5

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 40%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5
34.4	36.7	42.6	27.2	40.4

○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より 0.05 ポイント向上させる。

	国語					算数				
	R1	R2	R3	R4	R5	R1	R2	R3	R4	R5
現 6 年生		0.95	0.88	0.93	0.96		0.96	0.90	0.89	1.03
現 5 年生			0.77	0.81	0.72			0.73	0.68	0.68
現 4 年生				0.72	0.66				0.74	0.60
現 3 年生					0.67					0.59

○令和 5 年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5
67.9	91.3	86.9	87.5	72.8

○小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 65%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5
63.0	64.2	67.8	68.4	62.3

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 80%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5
79.7	中止	79.5	67.9	71.7

○規則正しい生活を身に付けている児童の割合（令和5年度の全国学力・学習状況調査の「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする児童の割合）を 65%、75%以上にする。

	R1	R2	R3	R4	R5
寝ている	67.6	中止	60.9	65.2	66.7
起きている	85.3	中止	78.3	82.6	75.0

学校園の年度目標

○年度末の校内調査において、「漢字の学習をがんばった」と回答する児童の割合を 85%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5
82	91	85	88	93

○年度末の校内調査において、「算数の文章問題をがんばった」と回答する児童を 80%以上にする。問題解決型の授業改善、池島タイムの運用を工夫する。

R1	R2	R3	R4	R5
			90	91

○年度末の校内調査において、「授業は工夫されていて、わかりやすい」と回答する児童の割合を 85%以上にする

R1	R2	R3	R4	R5
82	95	89	92	95

○年度末の校内調査において、「いろいろな教科などで、自分で考えたことを文章に表す活動をがんばりましたか」と回答する児童の割合を 85%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5
74	90	88	87	91

○年度末の校内調査において、「いろいろな運動に挑戦した」と回答する児童の割合を 85%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5
	83	86	89	94

○規則正しい生活を身に付けている児童の割合（令和 5 年度の全国学力・学習状況調査の「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする児童の割合）を 65%、80%以上にする。

	R1	R2	R3	R4	R5
寝ている	67.6	中止	60.9	65.2	66.7
起きている	85.3	中止	78.3	82.6	75.0

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

○年度末の校内調査の、「授業の中で、学習者用端末を活用して学習している。」の項目（協働学習支援ツール、デジタルドリルを含む）について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、70%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5
			93	80

○ゆとりの日を毎週 1 回以上設定する。

○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 2 を満たす教員の割合を 100%にする。

（基準 2 とは、時間外勤務が年間 720 時間以下、月 45 時間を超える月数 6 月以下、月 100 時間を超える月数 0、前 2~6 か月の平均が 80 時間を超える月数 0）

	4 月	5 月	6 月	7/8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月
基準 1	78.6	78.6	78.6	78.6	78.6	78.6	78.6	78.6	78.6	
基準 2	100	100	100	100	100	100	100	100	100	

学校園の年度目標

○年度末の校内調査の、「あなたは、学習者用端末を活用して発表できましたか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5
			86	78

○年度末の校内調査の、「プログラミング学習は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5
			75	82

○小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5
82	72	76	72.1	68.1

○年度末の保護者アンケートの「学校は保護者や地域の方に学校での子どもたちの様子を十分に伝えていると思われますか。」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を、90%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5
			95	100

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

- 不登校児童は現状0であるが、登校渋りは2名いる。保護者との対話をったり、子どもサポートネット会議で共有したり、区の子育て支援室と連携したりしながら学校から離れないように工夫している。1名は毎週1日から2日の朝、SSWや子育て支援室の担当者が家庭訪問をして登校を促している。もう1名は、区の登校支援センターを活用し、迎えに行くようしている。その成果があり、自分から登校できる日が増え、保護者との連絡もよくできるようになっている。
- 「いじめ」アンケートでは、19件のいじめ事案を確認できている。担任の聞き取りやていねいな指導の成果もあり、現状では解消率は100%である。当該児童以外の児童からの訴えもすべて丁寧な生活指導を行っており、早期解決ができている。また、「いじめ・命について考える日」での指導をはじめ、特別の教科道徳の時間や人権学習で「いじめ」そのものを考えさせ、自分以外の人に対する考え方の育成、人権感覚の向上などをめざし学習をおこなっている。教務主任が中心となり、心の天気の確認を行い学級担任と連携しながら、児童の心情に寄り添う支援ができるようにしている。
- 校内調査において、「学校や学級のきまり（約束）を守っていますか。」に対して肯定的な回答をする児童は92%であり、大阪市学力経年調査でも91.9%の児童が肯定的な回答をしている。しかし、「最も肯定的な回答」となると58%にとどまり、積極的な意味でのきまりをまもるには至らなかつたと考えられる。
- 自己肯定感はかなり高まっているといえる。全国学力学習状況調査の結果では83.4%、大阪市学力経年調査の結果では76.4%、校内調査では93%の児童が肯定的な回答をしている。数値にばらつきがあるところは検証が必要ではあるが、日々教職員が児童の愛着形成に努力をしている成果はでている。児童の生き辛さを理解しようと研修を受けたり、児童養護施設との連携を深めたり、全児童に対して共通した関りを進めている成果といえる。仲間づくりに関しても、縦割り班を活用し他学年との交流の場を広めており、高学年は自覚をもって低学年の児童と関わるようになった。
- 教職員は「いいとこさがし」を実践し、SKIPに記載したり、「今日のキラリさん」「褒め言葉のシ

ヤワー」「言われてうれしい言葉を使う週間」などの実践をおこなったりし、児童のもつ素晴らしい面をたくさん取りあげるようにしている。

自己有能感の面では、「人の役に立つ人間になりたいですか」に対して大阪市学力経年調査では**90.5%**、校内調査では**91%**の児童が肯定的な回答をしている。高学年では、自分の未来の姿を意識した思考とつながってきたものと考えられる。

〈今後の課題〉

引き続き、学校経営理念として掲げた「モチベーション3.0（内発的動機付け）」すなわち、興味、好奇心、才能の開花、自己の成長、キャリア意識、達成感、他の仲間、更には地域社会への貢献意識を中心とした動機付け法による児童の成長に至るためにエビデンスに基づく指導法を工夫する。

人に備わる、「有能感」「自律性」「関係性」という3つの心理的要件に応えることができるような文化的価値のある学校行事、日々の指導、児童との関わり方について研修を深める。児童の内面に寄り添い、心理的要件が満たされるように、よりいっそう環境を整え、内発的動機付けを発揮できるようにする。

加えて大人も子どもも「ウェルビーイング」をめざす学校づくりの実行を進める。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較したところ下記のような結果であった。

	国語					算数				
	R1	R2	R3	R4	R5	R1	R2	R3	R4	R5
現中1生	0.85	0.86	0.89	0.90		0.95	0.92	0.77	0.73	
現6年生		0.95	0.88	0.93	0.96		0.96	0.90	0.89	1.03
現5年生			0.77	0.81	0.72			0.73	0.68	0.68
現4年生				0.72	0.66				0.74	0.60
現3年生					0.67					0.59

いずれの学年も前年度より**0.05ポイント**向上させるところに目標を置いていたが、算数で6年生がほぼ達成できたのみで、他学年は国語算数ともに昨年度を下回っている。まだまだ学習方法を含めて考慮する必要がある。

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合は、**40.4%**と目標を上回った。しかし、「考えを深め、広める」状態を具体的に体感できるようには至っていないのではないかと考えられる。
- 外国語に対する関心は中学年ほど高く、高学年になるほど下がる傾向にある。これは4技能（聞く・読む・話す・書く）のうち、話す・書く技能を求められることにより英語離れの現象が起きているのではないかと推測できる。本校では、低学年からの外国語学習は毎週水曜日と金曜日の朝の時間に20分ずつ行っている。また、民間の英語学習塾の講師を招聘し、1, 2年生に体験的に英語を学ば

せる機会を設けている。今後これらの成果が出てくることを期待している。

令和5年度 漢字検定 本試験受検者数・合格者数

実施日1月26日（3学期本試験）

上段…受検者数 下段…合格者数

	10級	9級	8級	7級	6級	5級	4級	合計	合格率
1年1組	8							8	88%
	7							7	
2年1組	5	4						9	78%
	5	2						7	
3年1組		6	2					8	50%
		4						4	
4年1組	2	5	5	5	1			18	44%
	1	2	2	2	1			8	
5年1組	2	8	3	3				16	56%
	2	3	1	3				9	
6年1組	1	3			3	4	1	12	67%
	1				2	5	1	8	
合計	15	18	18	8	7	4	1	71	
	13	11	5	3	6	5	1	43	
合格率	87%	61%	28%	38%	86%	125%	100%	61%	

- 漢字検定への取組では、自分の今の漢字力を理解し、合格を目指す級を選定し、そのために漢字の勉強をする。こうしたメタ認知できる力は重要な非認知面の力である。児童は、朝学習や家庭学習で漢字検定の勉強を自学自習が当たり前にできるようになっている。自分の目指す級に合格したいという意欲の向上につながってきている。ここ数年の合格率は50%であったが、今年度は61%であった。
- 令和5年度学力・学習状況調査の分析は以下の通り。

大阪市の結果と比較すると、国語－16、算数－27 ポイント下回っている。正答数半分以下の児童が58%と正当分布が大きく左に偏っている。算数でも同じ傾向が見られる。愛着に課題の児童が多く在籍する本校では、数年にわたり指導者が、日々肯定的な声掛けに努め、さらに児童の「がんばり続ける力」「あきらめずに取り組む力」等の非認知面での育てに重きを置きながら教育を取り組んでいる。しかし、設問17にあるように帰宅後の学習時間が多いとは言えないこと、読書指導に力をいれてきたものの設問24「読書は好き」の回答が25%と学びの時間が不足しているのではないかという新たな課題が見えている。

[国語]

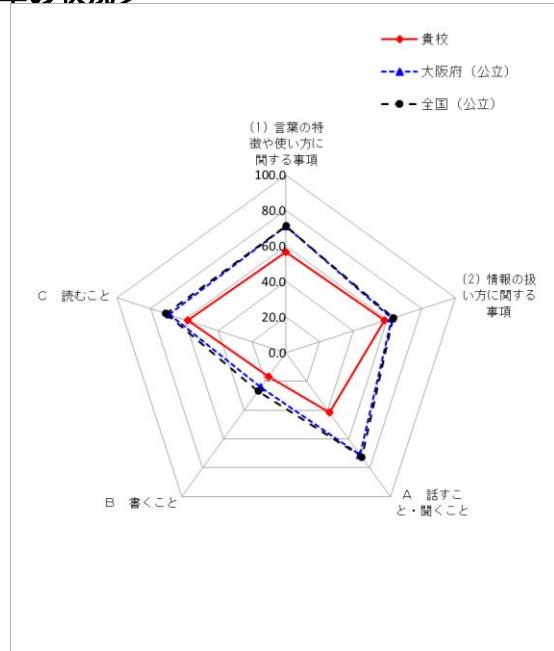
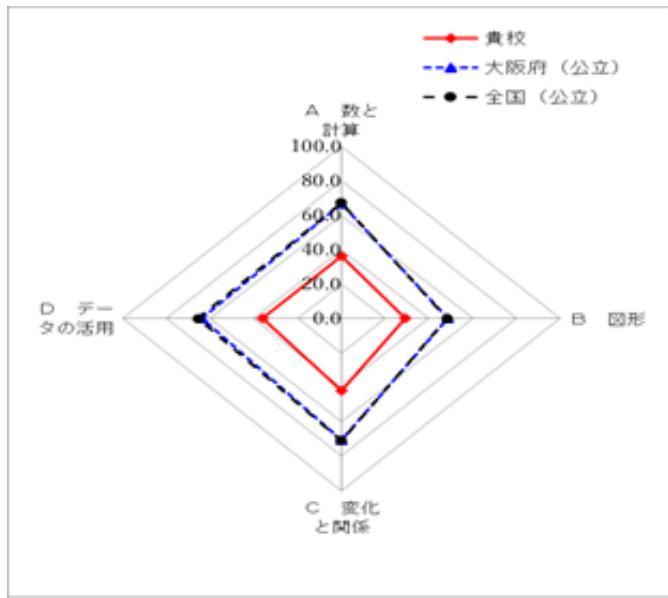
知識及び技能の「情報の扱い方に関する事項」は全国との差が小さい。思考力・判断力・表現力等の「読むこと」に関する問題も正答率が高い。これは、ここ数年説明的な文章に関する研究を進めてきた成果であるといえる。第1ブロックで取り組んでいる漢字検定への学習の成果も少しずつ出ている。しかし、記述式の問題の正答率が低く、自分の考えを文章で表す力は十分についてないといえる。

[算数]

算数は全国平均を下回っているが、デジタルドリルやブロック予算で購入した学習ドリルによる日々の学習の成果は少しずつ表れている。知識・技能面での正答率が全国に近くなっていることからもうかがえる。しかし、思考力・判断力を問われる問題に対する文章での説明が十分にでき

ないようで、正答率が低い。

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



- 3年間国語「説明的文章」の読み解から表現までの研究を進めてきた。児童の学びに向かう意欲を高める実践を中心に、児童と教員の学びを評価する目的でルーブリックを明確に位置付け、パフォーマンス課題を表現の一つとして研究を進めてきた。和歌山信愛大学の小林教授に引き続き指導を受け、授業改善が着実に進んでいる。また、日々の教材研究の積み重ね、指導材の共有の強化といった教員の努力の結果、校内調査の、「授業は工夫されていてわかりやすい」と回答した児童の割合は、昨年度より4ポイント上昇し、年度末においては95%の児童が肯定的な回答をしている。
- 令和5年度全国体力運動能力、運動習慣等調査の分析は以下の通り。
(母体数 21名)

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	16.73	21.36	38.36	37.27	36.60	10.26	146.27	21.82	51.90
大阪市	15.97	18.72	32.66	38.27	45.10	9.50	147.92	20.35	51.13
全国	16.13	19.00	33.98	40.60	46.92	9.48	151.13	20.52	52.59
女子	14.00	15.67	42.33	36.56	33.33	9.86	143.22	14.78	52.22
大阪市	15.88	17.85	37.44	36.49	34.75	9.74	140.20	12.69	52.67
全国	16.01	18.05	38.45	38.73	36.80	9.71	144.29	13.22	54.28

はじめに、本校5年生児童の全国体力・運動能力、運動習慣等調査は男子12名、女子9名の計21名を調査したものである。したがって、大阪市と全国平均と比較するには資料不足である。

体力合計点は、男子は大阪市の平均には少し上回ったが、全国平均を下回った。女子は大阪市・全国平均ともに下回った。種目ごとを見ると、男子は反復横とび・20mシャトルラン・50m走・立ち幅とびが全国平均を下回った。女子は長座体前屈・ソフトボール投げ以外は全国平均を下回った。

児童への運動に関するアンケート調査において、「運動やスポーツをすることは好きですか」の質問に対し、男子は「好き」が83.3%、「やや好き」が8.3%、「やや嫌い」が8.3%と回答した。女子は「好き」が22.2%、「やや好き」が66.7%、「やや嫌い」が11.1%と回答した。また、総運動時間が60%未満の児童の割合は男子が16.6%、女子が11.1%であった。本校では、昨年度から引き続き、休み時間に児童が外で体を動かして遊ぶ時間を増やす取り組みを2つ行った。「なわとび月間やかけ足月間を設定する」「教職員が積極的に児童と遊ぶ」である。その結果、年度当初から多くの児童が外で遊ぶ姿が見られ、その数は全校児童の7割以上に達することも多々あった。

本校では、休み時間に全校児童が外で体を動かして運動に親しむ機会を増やす取り組みとして、3つの体育活動を行った。「大縄跳び月間」「短縄跳び月間」「かけ足月間」である。その結果、それぞれの活動ごとに学級や個人で目標を持ち、他学年の様子から自分も頑張ろうと一生懸命励む様子が見られた。また、その活動の前後では練習する姿も見られ、普段運動が苦手な児童も積極的に運動する機会につながった。体育の授業の中でも、毎年引き継いでいる授業づくりと場づくりを参考にし、各学年が実態に合わせた授業を実施した。

本校は児童数が毎年減少しており、10人前後の学年が複数ある。また、単学級のため他のクラスと切磋琢磨し運動能力を上げようとする機会も取れずにいる。そのような状況の中でも、児童の基礎体力・運動能力の向上のために、現在行っている体育活動や体育授業の充実を図る必要がある。本校は年々児童数が減少しており、10人前後の学年も複数ある。したがって、統計から得られる課題は毎年大きく変わる。そのような状況の中でも、児童の基礎体力を向上させるために、現在行っている外で遊ぶことを推奨することや上記したような体育授業の充実を図る必要がある。また、各学年の運動能力的課題を指導者が把握し、その課題克服に向けた最適な体育活動を行っていく。

<今後の課題>

更なる問題解決型授業の工夫を進める。各教科においてパフォーマンス課題を設定し、児童が主体的に学べるようにする。個別最適な学びと協働的な学びの往還が図れる授業実践を行いたい。また、学習者用端末をより効果的に児童に使わせるための工夫、プログラミング教育の継続した学び、エビデンスに基づく学力分析、指導法の分析等を進める。研究教科からは外すが、国語科では引き続き文章を読み取る力の向上にさらに取り組み、ループリックを明確に児童と共有するように努めるとともに、パフォーマンス課題作成への道のりの指導を進める。同時に読書の習慣化を図り、読書量を増やせる手立てとして読み聞かせの機会の拡充を図る。さらに、研究を深め児童の学力の向上につながると考え、理解をもたらすループリックの作成を進めていく。

同時に、S S T（ソーシャルスキルトレーニング）やコグトレといった認知機能強化トレーニングを取り入れ、毎日、毎体育の時間、池島タイムにゲーム感覚で取り組めるようにする。

運動環境の更なる充実とともに課題解決を伴う体育授業の質の向上を図る。加えて、運動習慣が高まるように、かけあし、なわとび等の業間運動の運営方法の見直しを図る。

【学びを支える教育環境の充実】

- 年度末の校内調査の、「授業の中で、学習者用端末を活用して学習している。」の項目（協働学支援ツール、デジタルドリルを含む）について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合が80%と目標は上回ったものの昨年度より10ポイント下がった。これは、SKIPポータルの心の天気の入力が定着してきたこと、教科学習のまとめのスライドつくりの学習が増加したこと、デジタルドリルの活用が増えたこと、プログラミング学習の時間が計画的に進んだことなどが要因として考えられる。一方、学年によって活用頻度が下がっていることもみられる。年度末の校内調査の、「あなたは、学習者用端末を活用して発表できましたか。」の項目について、肯定的に回答した児童は78%、「プログラミング学習は好きですか」の項目について、肯定的に回答した児童は82%と目標を上回った。

学習者用端末 年間活用率表

池島小学校

	令和5年									令和6年			年間活用率
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
月間活用率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%				100.0%
日々活用率	77.9%	77.0%	79.7%	76.0%	55.8%	74.1%	80.6%	73.1%	73.2%				74.2%

- 学校園における働き方改革に関しては、基準2を100%達成できたが、基準1は昨年度よりも達成率が下がっている。一部に勤務時間を越えている教員がいることは否定できない。しかし、教員用端末を持ち帰り業務をしている教員もあり、教員の勤務時間の削減にはまだまだ課題が多いと考える。

〈今後の課題〉

学習者用端末を使用する時間や機会は確実に増加している。引き続き使用による学習効果があがるように進めていく必要がある。また、端末そのものが児童の健康面や発達面への影響を考慮し、様々な研究成果を参考にしながらすすめていく必要がある。また図書環境の整備を引き続き進めるとともに、児童がもっと読書を楽しめるような工夫が必要である。

教員の働き方改革も引き続き推進し、教員も「ウェルビーイング」な職場となるように改革を進めていく必要がある。

大阪市立池島小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかつた	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかつた
---	--

年度目標	達成状況																		
【安全・安心な教育の推進】 全市共通目標（小・中学校）																			
○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を75%以上にする。																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>73.5</td><td>中止</td><td>73.9</td><td>67</td><td>75.8</td></tr> </tbody> </table>	R1	R2	R3	R4	R5	73.5	中止	73.9	67	75.8									
R1	R2	R3	R4	R5															
73.5	中止	73.9	67	75.8															
○令和5年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.71</td><td>1.60</td><td>0.88</td><td>0.99</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>	R1	R2	R3	R4	R5	0.71	1.60	0.88	0.99	0									
R1	R2	R3	R4	R5															
0.71	1.60	0.88	0.99	0															
○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。																			
学校園の年度目標	B																		
○小学校学力経年調査及び年度末の校内調査の「学校に行くのは楽しいですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合をいずれも80%以上にする。																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経年</td><td>79.4</td><td>82.8</td><td>73.7</td><td>72.0</td><td>73.6</td></tr> <tr> <td>校内</td><td>77.3</td><td>85.7</td><td>85.5</td><td>86.0</td><td>89.0</td></tr> </tbody> </table>		R1	R2	R3	R4	R5	経年	79.4	82.8	73.7	72.0	73.6	校内	77.3	85.7	85.5	86.0	89.0	
	R1	R2	R3	R4	R5														
経年	79.4	82.8	73.7	72.0	73.6														
校内	77.3	85.7	85.5	86.0	89.0														
○年度末の校内調査において、「自分には1つ以上よいところがある。」と肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>68</td><td>83</td><td>79</td><td>82</td><td>93</td></tr> </tbody> </table>	R1	R2	R3	R4	R5	68	83	79	82	93									
R1	R2	R3	R4	R5															
68	83	79	82	93															
○令和5年度の小学校学力経年調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70.6</td><td>中止</td><td>60.9</td><td>67.9</td><td>76.4</td></tr> </tbody> </table>	R1	R2	R3	R4	R5	70.6	中止	60.9	67.9	76.4									
R1	R2	R3	R4	R5															
70.6	中止	60.9	67.9	76.4															

○年度末の校内調査において、「いじめは絶対に許されないことだと思いますか。」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 70%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5
45	47	58	77	

○年度末の校内調査において、「学校や学級のきまり（約束）を守っていますか。」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 60%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5
53	64	58	58	57

○令和 5 年度の小学校学力経年調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、

肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5
77.3	94.1	90.9	85.9	90.5

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【1－1　いじめへの対応】 <ul style="list-style-type: none"> ○「いじめについて考える日」を設定し、全校朝会での指導・各学級での指導を行う。 ○各学年、いじめに関する道徳教材に年に 1 度以上取り組む。 ○委員会活動等でいじめを許さないことを啓発するポスターを作ったり、呼びかけたりする活動を行う。 ○「チャイムの合図を守る」「廊下階段右側歩行」などの学校のきまりに基づく強調週間を年に 2 回設定する。 ○月始めの全校朝会において、生活指導上改善すべき事案を児童に指導する。 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ○本校実施のアンケート調査における「いじめは絶対に許されないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を <u>75%以上</u>にする。 ○本校実施のアンケート調査における「学校や学級のきまりをまもっている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>90%以上</u>にする。 	B

取組内容②【2－3 人権を尊重する教育の推進】

- 学年に応じて、各学級で児童が友だちの良いところや感謝の気持ちを伝え合うなど、互いを認め合う取り組みを行う。
- 人権学習や特別の教科道徳で扱う福祉の学習を行い、困っている人や助けを必要としている人の存在を児童が気付けるようにし、自分たちにできることを考えられるようにする。

A

指標

- 本校実施のアンケート調査における「自分には1つ以上よいところがある。」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。
- 福祉学習と人権教育の二つを各学年、年1回以上行う。

取組内容③【2－3 人権を尊重する教育の推進】

- 児童会が中心となって、たてわり班を生かす集会やいけっこまつりを行うことで、児童が他学年と交流、活動し、仲間づくりをすすめる。

A

指標

- 本校実施のアンケート調査における「学校に行くのは楽しいですか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①について

- 1月の本校実施のアンケート調査における「いじめは絶対に許されないだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答した児童の割合は91%であり、目標を上回った。
- 1月の本校実施のアンケート調査における「学校や学級のきまりをまもっている」に対して、肯定的に回答した児童の割合は92%であり、目標を上回った。
- 「いじめについて考える日」を設定し、全校朝会での指導・各学級での指導を計画通り実施した。
 - 各学年、いじめに関する道徳教材に1回以上取り組んだ。
 - 代表委員会が相手を思いやる言葉を積極的に使うことを目的とした啓発活動である「なかよしウィーク」を実施した。
 - 「チャイムの合図を守る」「廊下階段右側歩行」などの学校のきまりに基づく強調週間を実施した。
 - 月始めの全校朝会において、毎月、生活指導上改善すべき事案を取り上げ、児童に指導した。

取組内容②について

- 「いいところみつけ」や「今日のきらきらさん」、「誉め言葉のシャワー」など日常的に各学級で取り組んだ。代表委員会を中心に「なかよしウィーク」を設定し、「100のなかよし言葉」を伝え合う活動をした。また、キャリアパスポートや教科学習におけるループリックを用いた振り返りに取り組んだ。その結果、それぞれに自分の良いところや頑張りに気付くことができた。
- 本校実施のアンケート調査における「自分には1つ以上、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的な回答をした児童の割合は93%であり、目標を上回っている。
- 各学級で人権学習や福祉の学習を行った。また、3年生と4年生においては盲導犬の学習や福祉体験を地域の方や保護者と行った。困っている人や助けを必要としている人の存在に気付き、自分にでき

ることを考える活動につなげることができた。

取組内容③について

○たてわり班を生かす集会や児童会が中心となった「いけっこまつり」や「なかよしタイム」に取り組んだ。リーダーが低学年でもできる遊びを考えた結果、低学年はたてわり班活動を楽しんでおり、異学年交流が活発になった。本校実施のアンケート調査における「学校に行くのは楽しいですか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合は89%で目標を上回っている。ただし、高学年では自分たちが楽しむというよりも、下級生を楽しませる責任感が大きかったためか、否定的な回答をする児童が多かった。また、たてわり班の活動があるから「学校が楽しい」に必ずしも結びついておらず、聞き取り調査では、学習の難しさから否定的に答えた児童が数名いた。

次年度への改善点

取組内容①について

○いじめに関する項目の指標の数値は目標を上回った。しかしながら、学校生活の実態としては、相手を傷つける言動が多く見られる。それらを改善するために、もうすでにやっているが、教職員が毅然とした態度で児童と向き合い指導にあたっていく。場合によっては複数の教員で指導を行うことも必要である。また、日頃から相手を思いやることの大切さを意識付けるために、人権を尊重するようなポスター等を掲示することも次年度以降検討していく。

○学校のきまりに関する項目の指標の数値も目標を達成した。しかしながら、こちらもいじめに関する問題と同じように、実態としては守れていないことがしばしばある。中身としては、チャイムの合図は概ね守れているが、それからの切り替えの行動が遅く、結果、授業に遅れている。さらに、きまりとしていけないと定められているわけではないが、私語や授業中の立ち歩き、教室を抜け出すといった児童もいる。次年度以降、これらに対しても、いじめに関する問題同様、教員が粘り強く指導していく他はない。

取組内容②について

○自分の良さを認められる機会の少ない児童もいるので、各学級での自尊感情を高め合う取り組みを継続して行うとともに、否定的な回答をした児童には聞き取りを行い、学校全体で声かけをおこなっていくようにする。

○引き続き、人権教育や福祉の学習に取り組んでいく。しかし、担任に依拠している部分が大きいので、人権教育や福祉の学習に関わる校内研修を行い、全体で共通認識を持つようとする。また、それぞれの学級で取り組んだことをまとめておき、新しく担任になる人にも引き継げるようにしておく。

取組内容③について

○クラス替えもなく、各学級の人数が少なくなりつつあるため、今後人間関係がますます狭くなってしまうことが考えられる。他学年とも関係を築けるようにたてわり班を生かした活動は継続して行う。高学年の児童に関しては、たてわり班の活動を通じた頑張りを認め、やりがいにつながる言葉かけをしていく。また、学習すること自体を嫌い、否定的な回答につなげている児童には、学習の中で問題の解き方を与えるだけではなく、解き方と一緒に考え、「自分でできた」という成功体験を積み重ねることで、学習することの喜びや楽しさを味わわせる。

大阪市立池島小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標					達成状況					
全市共通目標（小・中学校）										
○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。										
R1	R2	R3	R4	R5	R1	R2	R3	R4	R5	
34.4	36.7	42.6	27.2	40.4						
○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上させる。										
	国語				算数					
	R1	R2	R3	R4	R5	R1	R2	R3	R4	R5
現6年生		0.95	0.88	0.93	0.96		0.96	0.90	0.89	1.03
現5年生			0.77	0.81	0.72			0.73	0.68	0.68
現4年生				0.72	0.66				0.74	0.60
現3年生					0.67					0.59
○令和5年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。										
R1	R2	R3	R4	R5	R1	R2	R3	R4	R5	
67.9	91.3	86.9	87.5	72.8						
○小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を65%以上にする。										
R1	R2	R3	R4	R5	R1	R2	R3	R4	R5	
63.0	64.2	67.8	68.4	62.3						
○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を80%以上にする。										

B

R1	R2	R3	R4	R5
79.7	中止	79.5	86.0	71.7

○規則正しい生活を身に付けている児童の割合（令和5年度の全国学力・学習状況調査の「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする児童の割合）を65%、75%以上にする。

	R1	R2	R3	R4	R5
寝ている	67.6	中止	60.9	65.2	66.7
起きている	85.3	中止	78.3	82.6	75.0

学校園の年度目標

○年度末の校内調査において、「漢字の学習をがんばった」と回答する児童の割合を85%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5
82	91	85	88	93

○年度末の校内調査において、「算数の文章問題をがんばった」と回答する児童を80%以上にする。問題解決型の授業改善、池島タイムの運用を工夫する。

R1	R2	R3	R4	R5
△△△	△△△	△△△	90	91

○年度末の校内調査において、「授業は工夫されていて、わかりやすい」と回答する児童の割合を85%以上にする

R1	R2	R3	R4	R5
82	95	89	92	94

○年度末の校内調査において、「いろいろな教科などで、自分で考えたことを文章に表す活動をがんばりましたか」と回答する児童の割合を85%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5
74	90	88	87	91

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【4－1 言語活動・理数教育の充実（思考力・判断力・表現力等の育成）】 <ul style="list-style-type: none"> ○言語力育成のための基礎となる読書や漢字練習をする朝学習の時間を設定する。 ○学習活動全般を通して、分かったことや自分の考えを文章にまとめる機会を多く設定する。 ○児童が意欲的に漢字検定を受検できるように指導の工夫や言語環境の整備を図る。（漢字検定用のドリルの配付や、模試の実施、ポスターの掲示など） 	A
指標 <ul style="list-style-type: none"> ○年度末の校内調査において、「漢字の学習をがんばった」と回答する児童の割合を85%以上にする。 ○年度末の校内調査において、「いろいろな教科などで、自分で考えたことを文章に表す活動をがんばった」と回答する児童の割合を85%以上にする。 	
取組内容②【4－2 「主体的・対話的で深い学び」の推進（各学校の実態に応じた個別支援の充実）】 <ul style="list-style-type: none"> ○問題解決型学習を意識した指導に取り組む。 ○全学年に話し合いの話型を掲示し、6年間を通じた意見交流の指導に取り組む。 ○主に算数科において、個に応じた指導を工夫し取り組む。 ○池島タイムを実施し、児童の基礎学力の定着を図る。 ○授業用パソコンや一人一台端末を活用し、工夫した授業づくりに取り組む。 	A
指標 <ul style="list-style-type: none"> ○年度末の校内調査において、「算数の文章問題をがんばりましたか」と肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 ○年度末の校内調査において、「授業は、工夫されていてわかりやすい」と回答する児童の割合を85%以上にする。 ○個に応じた指導や池島タイムに取り組み、児童の基礎学力の定着を図る。 	
取組内容③【5－1 体力・運動能力向上のための取組の推進】 <ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣を児童が身につけられるよう、教職員や委員会児童による呼びかけを行う。 ○体育授業を充実させるために、学年ごとに授業づくり・場づくりを記録する。 ○「なわとび月間」や「かけ足月間」を設定し、全校児童が運動に取り組む機会を設ける。 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣が身についたか、年2回実態調査し、分析した結果を全教職員に周知する。また、実態調査で「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。」「毎日同じくらいの時刻に起きていますか。」それぞれに対して肯定的な回答をする児童の割合を65%、75%以上にする。 ○年度末の校内調査において、「いろいろな運動に挑戦した」と回答する割合を85%以上にする。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①について

- 毎週火曜日と木曜日に読書や漢字練習をする朝学習の時間を設定し、1年間継続して取り組んだ。
- 学習全般を通して、自分の考えや振り返りを文章にまとめる機会を多く設けた。型に当てはめて書いたり、選択肢から自分の考えに合うものを選んだり、友達の意見を真似て書いたりする経験を繰り返すことで、少しずつ自力でかける児童が増えているように感じる。年度末の校内調査では、「いろいろな教科などで、自分で考えたことを文章に表す活動をがんばった」と回答する児童の割合は91%で、指標を大きく上回った。
- 児童が意欲的に漢字検定を受検できるように、ドリルを一人一冊配布して取り組ませた。また、模擬試験の実施や、ポスターの掲示など学習環境を整備したことや、教職員の励ましの声掛けも児童の学習意欲の向上につながったと考えられる。年度末の校内調査では、「漢字の学習をがんばった」と回答する児童の割合は94%で、指標を大きく上回った。

取組内容②について

- 主に算数科の学習において、問題場面から課題をつかみ、その解決に向けて思考する問題解決型学習を意識した指導を行った。文章から必要な条件を読み取り、既習内容を活用して解決する流れが定着しつつある。児童の自力解決の時間や練習問題に取り組む時間をできるだけ長く確保できるよう展開を工夫した。年度末の校内調査では、「算数の文章問題をがんばりましたか」と肯定的に回答する児童の割合は91%で、指標を大きく上回った。
- 全学年で共通した話し合いの話型を掲示して指導した。実態に応じて多少の違いはあるが、6年間の一貫した指導が実現しつつあると言える。
- どの授業においても、ほとんどが授業者とT2の二人体制で行われ、細やかな机間指導をしたり、取り組ませる内容を個に応じたものにできるようにしたりして、指導を工夫した。
- 池島タイムでは、デジタルドリルを活用することで、児童の習熟に合った学習が進められた。また、復習プリントに取り組ませたことで、授業では気付かなかった児童のつまずきに気付くことができた。授業の改善や学習を補うプリント学習へつなげることができた。
- 視覚化を意識し、大型モニターにデジタル教科書を映して見せたり、パワーポイントを活用して活動の手順を示したり、授業づくりを工夫した。視聴覚機器を活用することで、児童が学習内容を視覚的に把握する手立てとなったと考えられる。年度末の校内調査では、「授業は、工夫されていてわかりやすい」と回答する児童の割合は95%で、指標を大きく上回った。

取組内容③について

- 委員会を中心に呼びかけを行い、6月に比べ、12月のアンケートに肯定的に回答する児童が増えた。「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。」「毎日同じくらいの時刻に起きていますか。」のアンケートに肯定的な回答をした児童は、2回の結果を平均して64%、86%であった。
- 体育授業の充実のために、学年ごとに授業づくり・場づくりを記録した。
- 「なわとび月間」(大縄跳び)を1学期、「なわとび月間」(短縄跳び)を2学期、「かけあし月間」を3学期に実施した。その結果、校内調査における「いろいろな運動に挑戦した」に対して肯定的に回答した児童の割合は94%と目標を上回った。

次年度への改善点

取組内容①について

- 朝の準備などが遅く、学習に取り組めていない児童がいる。指導者が声掛けできるよう、曜日の設定を改めることで改善できるのではないかと考えられる。

- 自分で考えたことを文章にまとめる機会を設ける際に、思考の観点や話型を提示する工夫を継続し、児童が「自分の力で」自分の考えをまとめられたと実感できるように指導していく。
- 体育や図工、音楽などの教科でも「自分で考えたことを文章に表す活動」を少しづつ取り入れていく。
- 漢字検定合格への意欲の差が大きいので、ドリルを開かなくても練習問題に触れる機会をもてるよう、級ごとの問題を掲載した掲示物を用意するなど、さらなる言語環境の整備を進める、
- 生活の中で漢字を使えるようになるために、授業のノートなどで使える漢字はすすんで使うよう指導する。

取組内容②について

- 文章題の読み方の指導を徹底し、児童が自力で解決できるようにしていく。
- 児童数の減少を考慮し、従来通りの一斉授業ではなく、個に応じた柔軟な指導ができるように授業展開を工夫する。
- 授業が「わかりにくい」と回答した児童へのフォローを行う。何がわかりにくいのか、どうすればわかるようになるのか、児童の声を聞き寄り添った支援を行う。
- 指導者が校内研修や外部の研修会に参加し、指導法を学ぶ。

取組内容③について

- 引き続き、委員会やお便りなどで啓発を行うと同時に個別の対応もしていく必要がある。
- 過去の体育科授業づくり・場づくりの記録を参考に、より効果的な体育科の授業づくりを進めていく。
- 全校として取り組んだ体育活動では、各学級や個人で目標を持ちながら取り組むことができており、運動に親しむよい機会となった。今年取り組んだ実践をもとに、来年度も全校児童が運動に取り組む機会を設ける。

(様式2)

大阪市立池島小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況										
【学びを支える教育環境の充実】 全市共通目標（小・中学校）											
○年度末の校内調査の、「授業の中で、学習者用端末を活用して学習している。」の項目（協働学習支援ツール、デジタルドリルを含む）について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、70%以上にする。	B										
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">\</td> <td style="text-align: center;">\</td> <td style="text-align: center;">\</td> <td style="text-align: center;">93</td> <td style="text-align: center;">81</td> </tr> </table> ○ゆとりの日を毎週1回以上設定する。	R1	R2	R3	R4	R5	\	\	\	93	81	
R1	R2	R3	R4	R5							
\	\	\	93	81							

○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を100%にする。

(基準2とは、時間外勤務が年間720時間以下、月45時間を超える月数6月以下、月100時間を超える月数0、前2~6か月の平均が80時間を超える月数0)

	4月	5月	6月	7/8月	9月	10月	11月	12月	1月	
基準1	78.6	78.6	78.6	78.6	78.6	78.6	78.6	78.6	78.6	
基準2	100	100	100	100	100	100	100	100	100	

学校園の年度目標

○年度末の校内調査の、「あなたは、学習者用端末を活用して発表できましたか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5
			86	77

○年度末の校内調査の、「プログラミング学習は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5
			75	82

○小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5
82	72	76	72.1	68.1

○年度末の保護者アンケートの「学校は保護者や地域の方に学校での子どもたちの様子を十分に伝えていると思われますか。」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を、90%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5
			95	94

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6－1 ICTを活用した教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○タブレット端末・一人一台学習者用端末を活用して、年に1つ以上スライドやカードを作成する活動をする。 ○プログラミング学習年間指導計画に沿って、各学年プログラミング学習を行う。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年度末の校内調査における「授業の中で学習者用端末を活用して学習している。」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、70%以上にする。 ○年度末の校内調査における「学習者用端末を活用して発表することができますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。 ○年度末の校内調査における「プログラミング学習は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。 	A
<p>取組内容②【9－2 教育コミュニティづくりの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校ホームページの日々の更新や学校だよりの配付等により、学校や児童の様子を伝える。 ○地域と合同の防災訓練やPTAと学校共催の福祉体験活動、ふれあいまつり等、保護者や地域とのつながりを持てる行事に参加する。 ○港区はぐくみネットによる授業を計画、実施する。 	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年度末の保護者アンケートにおける「お子様との会話や学校からの手紙、連絡等で学校でのお子様の様子がよくわかりますか」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を、90%以上にする。 	
<p>取組内容③【8－2 「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づいた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○毎週火曜日に朝の読書タイムを実施する。 ○図書委員会によるおすすめの本の紹介や毎週1回の図書館開放を実施する。また、学級でも毎週1回図書室を利用したり、学級貸し出しを利用したりして本に触れる機会を多く持つことができるようとする。 ○図書の時間に図書館司書による読み聞かせを実施する。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校内調査における「授業の中で学習者用端末を活用して学習している」の項目について、「毎日」「ほぼ毎日」と答える児童の割合は81%と目標を11ポイント上回った。活用しているものの内容としては、「心の天気」、「デジタルドリル」、「インターネット」、「プログラミングアプリ」「プレゼンテーション作成アプリ」などである。学習者用端末が児童の意識として、特別なものからいつでも使うことのできる道具へと変わってきていることがうかがえる。教職員も自分なりの活用方法を見出して来ている様子がうかがえる。ただ、児童が検索や文章を入力する際に、手書きや音声機能使って調べる児童も一定数いるという課題が見えてきた。心の天気も朝の会のときに入力するように声掛けをしているが、毎日入力していない児童も一定数いる。 ○校内調査における「プログラミング学習は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割 	

- 合は 82%と指標を 12 ポイント上回った。各学年の発達段階に応じたプログラミング学習に取り組めた。ただ、人が作ったゲームで遊ぶこと（コピーして使うこと）は好きであるが、実際に自分たちでゲームを作るとなると、ブロックの数や手数の多さ、変数や座標などで、苦戦してしまい、理想と現実の違いに直面し、プログラミングが好きに結びつかなくなってしまったよう児童もいる。
- 校内調査における「学習者用端末を活用して発表することができますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合は 77%で目標を 7 ポイント上回った。様々な学習で学習者用端末を使ってスライドを作り発表する活動を行った。しかし、学習者用端末を使って発表する活動に取り組んでいるが、できていないと回答している児童も見られる。

取組内容②について

- 校内調査における「お子様との会話や学校からの手紙、連絡等で学校でのお子様の様子がよくわかりますか」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合は 94%と目標を 4 ポイント上回った。
- ホームページの更新は、日々の学習の様子や行事の様子、学校で取り組んでいることが分かりやすく掲載されている。ホームページを保護者や地域の方に見ていただけるように、「学校だより」に QR コードとお知らせを載せている。
- 「学校だより」、「学年だより」については、毎月 1 度発行しており、町会の会議にも学校だよりを資料として持っていき配付している。それを町会ごとに各家庭に回覧してもらっている。
- 地域の一員としての自覚を育むために、6 月には地域と合同で「交通安全指導」を実施した。9 月には池島地域に住む高齢者の方に向けて「敬老の日のお手紙」を書いた。11 月には「池島ふれあいまつり」に参加し、保護者や地域の方に向けて演奏をした。それに合わせて、地域の方に向けて案内のお手紙も書いた。その他にも、昨年度に引き続き運動会でも保護者参加型の競技を実施した。9 月には「いっしこまつり」を土曜授業として実施し、保護者だけでなく、地域の方にも見ていただいた。
- 福祉体験活動としては、6 月に 4 年生が「車いす・高齢者疑似体験」を、2 月に 3 年生が「盲導犬体験」を実施した。はぐくみネットの授業も 1 月に実施している。

取組内容③について

- 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答した児童の割合は 68.1%と目標を 7 ポイント下回った。
- 読書タイムについては毎週火曜日の朝学習の時間に設定しており、定期的に読み聞かせをしたり、テストが早く終わった児童や学習が早く終わったりした際などに本を読む機会を各学級設けている。
- 図書館司書や担任による読み聞かせは実施できた。
- 毎週火曜日は図書館司書が終日いるため、図書室を終日開放している。図書委員による図書館開放は読書週間に合わせて実施できた。また、図書委員児童と図書館司書によって、各学年の児童におすすめの本や課題図書の紹介、季節や年中行事にあった本の提示など、本に親しんでもらうための取り組みが多く行われた。
- 12 月には「お話し会」を実施し、児童が普段触れることが少ない物語の本に親しむ機会を設けた。
- 区役所を通していただいたビーズソファーを図書室に置いたことにより、それに座りながら読もうと本を手にする児童が増えた。

次年度の改善点

取組内容①について

- 発表したことを「できた」としっかりと何度も伝え、学習者用端末を使って発表できている意識を持たせるようにする。また、スライドやカード等の発表資料作成の時間を計画的に確保し、発表することで考えをアウトプットし、考えの成熟を促していく。
- スクラッチなど、使うブロックを載せたカードなどを用意しておき、わかりやすくプログラムできるよ

- うにする。
- 3年生から始まるローマ字練習に加え、タイピングの練習になるサイトを活用し、キーボードで文字入力をする習慣を培っていく。
- 取組内容②について
- 引き続きホームページの充実や学年だより等の定期的な情報発信を続けていくことが大切である。「ふれあいまつり」などの地域とのかかわりがある行事にも参加する。
- 取組内容③について
- 引き続き環境を整備することや、授業にあった内容の本を教室に置くなどすぐに読みたいときに読めるような環境作りが大切である。
- 学級貸し出しを利用し、1か月に1度程度は入れ替えを行う。